

12月19日 生駒山

藤村 敏幸

山名	生駒山	山行名	生駒山縦走	
ルート	近鉄平群駅→十三峠→鳴川峠→生駒山山頂→近鉄石切駅			
山行日	令和2年12月19日	天候	曇り	
参加者	CL:藤村 SL:西川 永井 染矢 木田 玉置 上杉 倉光 河野 牧之瀬 原田 佐々木 大西 秋山 堤 15名			
	コースタイム		昼食後発	13:15
	地名	時:分	ぼくらの広場着	13:30
	近鉄平群駅発	8:50	暗峠着	14:00
	縦走路入口着	10:30	生駒山山頂	14:55
	十三峠着	11:05	石切駅着	16:15
	鳴川峠着	12:20		
	昼食開始	12:45		
<p>近鉄平群駅から縦走路入り口までは、住宅街や畑地中を通る緩やか登り道で歩き易く、さらに縦走路も多少の登り降りがあるが道はよく整備され軽快に歩ける縦走登山でした。縦走路と平行している生駒信貴スカイラインは横断時以外立ち入り禁止でした。ただ生駒山頂上から石切駅までの下りは予想以上に傾斜が急な下山道でした。曇り空でしたが、ぼくらの広場から眺めた大阪平野は視界一杯に広がり広大で、空気も澄んでおり遠く南港大橋まで見ることができました。天気がよい日にゆっくりと時間をかけて遊びに登りたい場所である。</p> <p>生駒山山頂直下の国定公園記念碑からは、京都府南部、奈良盆地、葛城山系、大阪平野と2府県をまたぐ大パノラマを見ることができました。生駒山山頂の三角点は遊園地内の空き地に記名板があるだけの寂しいものでした。当初は山行後、石切神社の参拝を計画していたがコロナ感染の可能性もあり中止とした。</p> <p>近鉄平群駅から縦走路入り口までは一般道でどれだけ時間を要するのか分らず平地での歩行時間よりかなり多めに90分と予定し、大丈夫かと心配したがほぼ予定通りに入り口の峠まで登ることができました。集合時間が午前7時なので、朝食を軽く又は、無で参加している人もおり、歩き始めから2時間以上経過した頃から、休憩の都度パン等の行動食を食べる人が増えてきた。十三峠に11時頃に到着したので、早朝からの行動時間を考えれば十三峠で昼食にするべきであった。腹が空いたとの発言や、鐘の鳴る丘で休憩したいとの意見もありましたが、展望がよい場所での昼食にこだわり、耳を傾けず歩き続け食事を遅らし、参加者に空腹での歩行を強いることになり配慮不足を反省しております。</p> <p>縦走路のコースタイムについては、適当な登山地図が手元になく、又容易な生駒山との思いがありYAMAPのコースタイムを参考にして企画した。予定より時間を要した区間や、予定通りの区間もあり昭文社の山地図を参考にして作る工程表より誤差が均一ではない結果となりました。やはり昭文社の登山地図やガイドブックを参考にして作成するべきであると思います。</p> <p>石切駅には予定より1時間15分遅く到着した。十三峠から鳴川峠まで予定より30分多く、ぼくらの広場で予定外の20分休憩、生駒山山頂から石切駅までは道の半分程が急坂の丸石敷き参道で歩き難く30分多く要したことが原因です。</p> <p>予定より約1時間多く6時間30分歩行になり、参加された皆様ご苦労さまでした。</p>				
ヒヤリハット なし				

感想文

堤 雅美

あいにくの曇り空でしたが風もなく寒さも歩くうちに忘れてしまいました。上りの坂道が多く、片道後半くらいで身体に力が入らず歩く事もままならなくなり、その近辺で早めの昼食となりました。後で聞くと朝食を取らなかった事が原因で血糖値が下がっていたようです。

昼食をとったら回復しました。回復するまでの間、羽織ものを掛けてくれたり、ザックを集めて足を高くしたりと色んな対応をして頂きました。後で「シャリバテ」と言う言葉を教えて頂き、また一つ登山用語を覚えました。

頂上手前で雪かミズレが降り風も出てきましたがそれも少しの間で頂上では空気が澄んでいたのか大パノラマな景色を堪能出来て良い1日でした。今回、皆さんにはご迷惑を掛けてしまい申し訳ありません。皆さんの心遣いに感謝します。



ぼくらの広場にて



生駒山山頂